臨床検査システム内物品管理ソフト導入効果に関する報告

◎吉野 歩[1)]、橋本 剛志[2)]、松元 亜由美[2)]、本郷 剛[2)]、一瀬 康浩[2)]、吉原 正保[2)]
国立病院機構 鹿児島医療センター[1)]、独立行政法人 国立病院機構 熊本南病院[2)]

【背景】試薬管理台帳の整備は2018年12月の医療法改正により義務化されている.当院は2019年7月に手書き管理からFileMakerでの管理へ変更した.同年11月より株式会社アイディエスと検査システムIDS LABOWARE内の物品管理ソフト開発を行い,2020年2月より同ソフトを用いた管理へ移行した.今回,検査システム内物品管理ソフト導入効果の評価と当院で経験した管理手法(手書き,Filemaker,LABOWARE)の比較を行った.

【対象・方法】2018年12月から2022年3月までの試薬消耗品の使用履歴を対象とした.記録不備数,ABC分析,年度別の購入金額,平均在庫期間(月別),在庫回転率,在庫金額を評価した.

【結果】記録不備は手書き1465件,Filemaker551件,LABOWARE383件で物品管理ソフトの導入により減少した($p<0.05$).ABC分析におけるA群は免疫35%,生化学7%,凝固5%,血液ガス4%,微生物4%,血液4%,一般2%,輸血1%であった.購入金額は2019年度277±204万円,2020年度236±43万円,2021年度297±43万円であった.売上原価率は2019年度13.4%,2020年度17.8%,2021年度20.7%であった.在庫金額は2019年度629±124万円,2020年度491±96万円,2021年度461±50万円であった.LABOWARE導入後に在庫金額を最大352万円削減できた.在庫回転率は2019年度4.98±3.8,2020年度4.6±3.5,2021年度7.7±6.7であった.平均在庫期間(月別)は2019年度3.4±2.1,2020年度4.6±4.0,2021年度3.5±3.2であった.在庫金額や在庫回転率は改善されたが,購入額は増加した($p<0.05$).

【まとめ】検査システム内物品管理ソフト導入により作業の効率化が得られた.毎月の購入額や在庫額のバラツキ,記録不備の減少が確認できた.在庫定数や発注サイクルの見直しを行えた事が在庫金額や在庫回転率の改善につながった.検査システム内物品管理ソフトは経営意思決定の上で重要で経営面から病院運営に貢献出来ると考えられる.

連絡先：099-223-1151（内線7315）